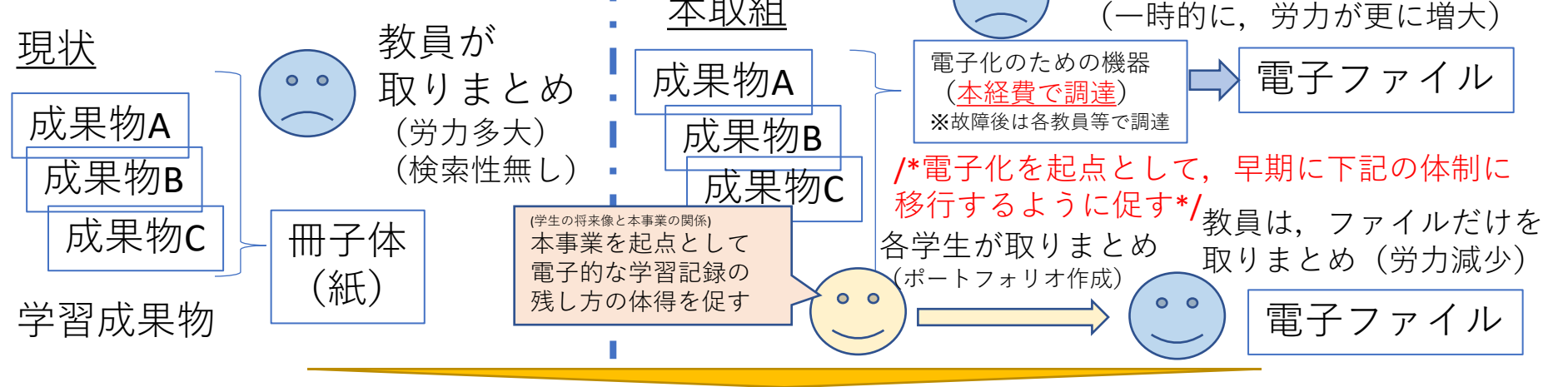


●実施概要

現 状	成績の大規模漏洩を防ぐ体制がDX化の足枷であり、成績評価資料を紙資料として蓄積している。その結果、省力化・データ活用による教育の高度化が停滞している。安全な学生データの共有化、それを行っても教職員業務の負担増とならない取組が肝要となる。DX化で教育の質保証を現代的なスタイルに推進する必要がある。
目 的	本校のDX化は、コロナ以降、順調に進めている。しかし、標題の成績評価資料は、電子化を行う各教職員の力量とセキュリティリスクのバランスから、全く進んでいない。機器整備によって業務の定型化を行い、成績評価資料の電子化を安全に推進し、来期以降の学生データの共有化・共有の省力化を実現する。

●取組内容と実施体制の説明



取組の成果目標 (アウトプット)	資料を完全電子化した[手元に紙資料で残さない]科目57科目 (2月末時点で常勤教員57名で各1科目程度の数量を想定し、3月にフォローアップで科目数の上積みを行う)
得られた成果指標 (アウトカム指標)	完全電子化に適したポートフォリオテンプレートの提言8パターン (各学科・一般科目から2件[座学系, 実習系]以上を想定)
目的に対する成果指標の考え方	最も進んだ形態[5年後の自走形態]を「学生成果(電子)」→「教員収集(電子)」→「保管資料(電子)」と想定。 学生の学習成果を電子的なポートフォリオにしていく方策を進めて行く必要があり、アウトカム指標を設定。 アウトカムの前提は、電子化の意識・態度の確立であり、資料全体の電子化をアウトプット指標と設定。